

13

CIVIL ENGINEERING
DESIGN PRIZE



Hitachi Walk Footbridge and Around station district design

日立駅自由通路及び 駅周辺地区デザイン

【茨城県日立市】

用途 / 道路橋

日立市中心市街地活性化区域の東端に位置する日立駅は、東西の市街地が鉄道で分断されており、かねてから市街地の連続性・一体性確保やユニバーサルデザインの誰もが使いやすい駅への改良が求められていた。交流起点や結節点としての機能強化を図り、ふるさとも感じる日立の顔として誇れる都市拠点形成するため、日立駅自由通路及び橋上駅舎を整備し、これを核とした駅周辺整備の戦略的なシビックデザインプロジェクトを進めた。

自由通路と橋上駅舎は、周辺環境になじむよう高さを低く抑え、平面的に広がりながら、自由通路東西口の公共施設や駅前広場へと繋がり、一体的なまとまりを作り上げている。建物全面は透明なガラススクリーンで覆い、至るところから海やまちを眺めることができる開放的な空間とした。

地域特性や周辺環境の調和を図りながら、市民が誇れる優れた空間とするために、デザイン提案競技を実施して「デザイン監修者」を選定し、東西の交通広場、都市計画道路、自転車駐輪場、東西の市民交流プラザ、駅前民間施設にいたるまでデザインの指導・調整を図った。デザイン調整は、施工者、工事監理者をチームに加え、工事完了に至るまで継続的に行われ、一貫したデザイン思想を実現した。

完成後、東口の情報交流プラザ内カフェについては、「天空のカフェ」といつしか言われるようになり、マスメディアにも取上げられ、市内外からの来訪者によって休日を中心に賑わいを見せている。また、これまでに自由通路の海側先端部展望スペースは、駅コンサート、ブライダルフェアなどが行われ、海への眺望を楽しみながら、人々が交流するスペースとなっている。また、このデザインを末永く維持していくため、市とJR水戸支社は今後の各種設備の設置や修繕等にあってデザインガイドラインを締結した。これにより、供用開始5年が経った現在においても、改良を行う際には継続的に協議調整を行っている。



自由通路と橋上駅舎は、平面的に広がりながら、公共施設や駅前広場へと繋がり、一体的なまとまりをつくり上げる。

主な関係組織
○日立市 / 事業主体 ○東日本旅客鉄道株式会社水戸支社 / 駅舎及び自由通路実施設計受託 ○株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所 / 駅舎及び自由通路基本設計 ○株式会社妹島和世建築設計事務所 / デザイン監修、日立駅周辺地区空間設計 ○株式会社都市環境研究所 / 基本構想・基本計画・事業企画運営

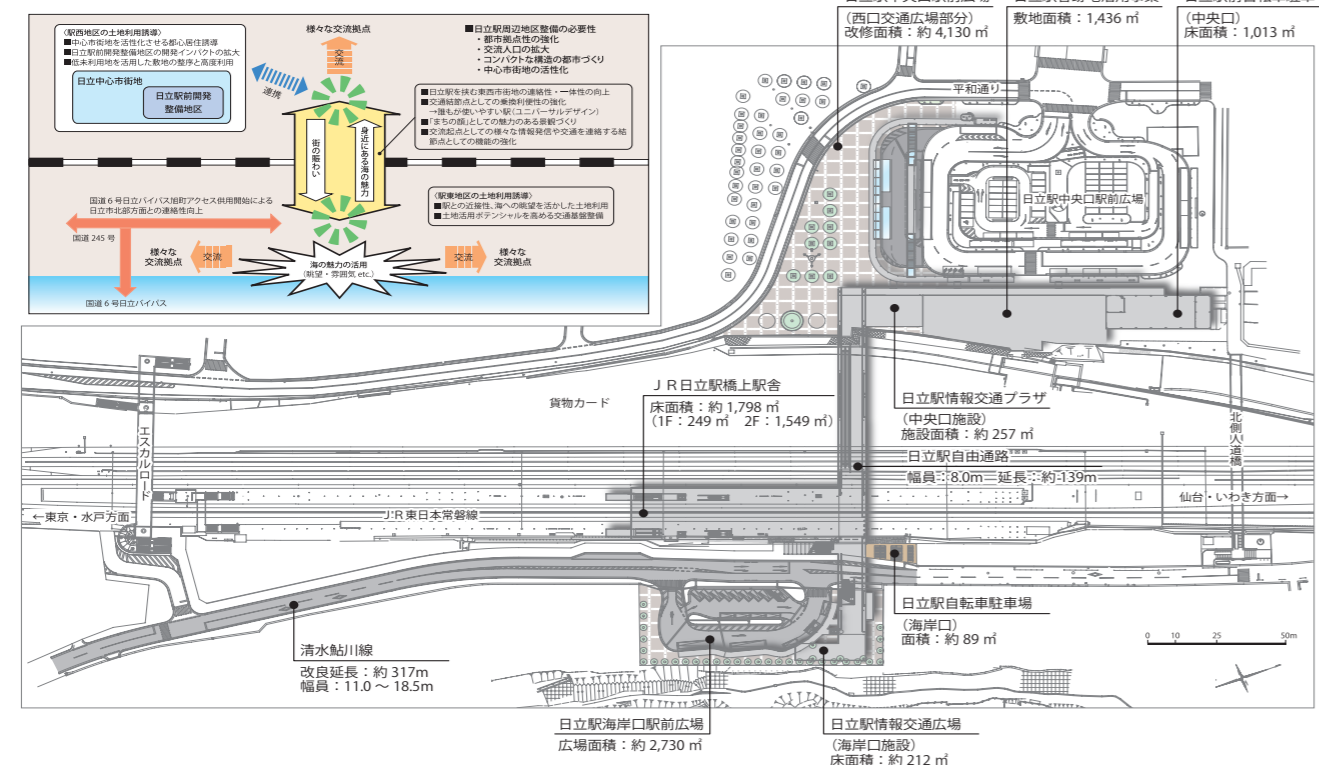
主な関係者（所属は当時）
作山 康（株式会社都市環境研究所） / 事業企画・基本計画・都市デザイン
妹島 和世（妹島和世建築設計事務所） / 日立駅周辺地区空間設計・デザイン監修、中央情報交流プラザ実施設計
片桐 広祥（妹島和世建築設計事務所） / 日立駅周辺地区空間設計、中央情報交流プラザ実施設計
村瀬 大作（株式会社都市環境研究所） / 事業企画・基本計画



1. 海に浮かぶカフェと呼ばれるようになった公設民営のカフェ（日立駅情報交流プラザ海岸口施設）
 2. 建物全体を透明なガラススクリーンで覆い、至るところから海やまちを眺めることができる開放的で透明な空間とした。
 3. かつての駅前広場は、海が近いにも関わらず海を感じられなかった。



BEFORE



施設配置図 (1/2,500)



4. 軽やかな構造体により開放的な空間とわかりやすい動線により海を眺めながら移動できる自由通路
 5. 豊かな自然を感じられる立地を生かし、海への眺望を楽しみながらくつろげる空間
 6. 自由通路海岸口の先端部では、海の眺望を楽しめコンサートなどのイベントに利用できる。

選考委員総評

プラットフォームからエスカレーターでコンコースに上がると、開放的な全面ガラススクリーン越しにいきなり水平線のパノラマ景観が迎えてくれる。水平線は駅舎のどこにも見る事ができ、海を望める場所に位置する駅であることを最大限に生かした計画であることが実感できた。また床や天井の材料と仕上げが絶妙で、床には空の気配が、天井には海の気配が映り込み、屋内でありながら自然の中に浮遊しているような不思議な身体感覚を呼び起こさせる。中央

口駅前広場に面するファサードはボリューム感のある庇を連続させることで、駅出口、商業施設、トイレ、駐輪場など、異なる機能及び意匠を繋げ、整序感を感じさせる。自由通路や駅舎という土木構造物を、高度な建築的手法で昇華させたすばらしい作品であるが、本来であれば一体的な空間デザインであるべき駅前広場が、そこまで到達していないのではないかという課題も指摘された。(須田)

設計期間

2005年7月～2007年3月(自由通路及び駅舎)

施工期間

2008年1月～2014年3月(自由通路及び駅周辺地区デザイン)

事業費

64億3,100万円(駅舎、自由通路、駅前広場、駐輪場等関連施設、用地費含む)

事業概要

- 1.日立駅自由通路
幅員8m、延長139m、床面積約1,559㎡(1F 133㎡ 2F 1,426㎡)、鉄骨造
- 2.日立駅橋上駅舎
床面積約1,798㎡(1F 1,249㎡ 2F 1,549㎡)、鉄骨造
- 3.日立駅海岸口駅前広場(日立駅東口)
広場面積(約2,730㎡)
- 4.日立駅中央口駅前広場(日立駅西口交通広場部分)
改修面積(約4,130㎡)
- 5.清水鮎川線
改良延長:約317m 幅員:11.0～18.5m
- 6.日立駅前自転車駐車場(中央口)
床面積:約1,013㎡(1F 506.5㎡ 2F 506.5㎡)、自転車705台、原付32台鉄骨造
- 7.日立駅前自転車駐車場(海岸口)
面積:約89㎡、自転車60台、原付6台、平面駐車場

8.日立駅跡地活用事業

敷地面積:約1,436㎡ 事業用定期借地権設定による民間提案施設の建設運営

9.日立駅情報交流プラザ(中央口施設)

施設面積:約257㎡ 市直接工事(民間提案者に工事委託)、デザイン監修者による実施設計、施設内容(インフォメーションセンター・物産館・多目的ホール)

10.日立駅情報交流プラザ(海岸口施設)

床面積:約212㎡、施設内容(公設民営カフェ、展望イベントホール)

○事業財源:まちづくり交付金、合併特別事業債、日立駅前開発整備基金

事業者

日立市

設計者

東日本旅客鉄道株式会社水戸支社(駅舎及び自由通路実施設計)

株式会社妹島和世建築設計事務所(デザイン監修)

設計協力者

株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所

佐々木睦朗構設計画研究所(構造設計協力)

株式会社杉原設計事務所(駐輪場)

株式会社長大(海岸口駅前広場、中央口駅前広場)

施工者

東鉄工業株式会社(駅舎及び自由通路)